

「私の心はアコーディオン」 ♪～ダニエル・コラン さよなら公演～ レポート♪

日時 2011年12月10日(土) 18:00～
会場 東京・HAKUJU HALL

12月10日(土)HAKUJU HALLにて行われた、東京公演へ行って参りました。

今回のツアーで来日公演は最後になるとのこと。残念な気持ちと、コンサートへの期待が交錯しながら、会場へ。

第1部では新作アルバムを中心に、自作の曲や、往年のミューズ曲を披露。コランの魅力が最大限に引き出されたステージで、アコーディオンだけでなく、バンドネオン演奏でも魅せてくれました。次々に繰り出される無限のフレージングに、思わず目と耳が釘付けに。

第2部は、ボーカルのクレールさんが加わり、エディット・ピアフやリュシエンヌ・ドリールなど、パリの香りがいっぱい詰まった懐かしのシャンソンを。温かくてやさしい声が会場を包みます。12月ということもあり、フランスのクリスマス定番曲“プティ・パパ・ノエル”を歌っていただきました。ボーカル3声とアコーディオンの音色が美しく響き合い、聴き応え十分で、何だか素敵なプレゼントを頂いたような気がしました。

アンコール曲「パリの空の下」「オー・シャンゼリゼ」を終えても、全く鳴り止まぬ拍手…。



ファンからすると、“これが日本で最後のコンサートだなんて言わないで～！”の一言に尽きるのではないのでしょうか。楽しいひとときを過ごすことができ、本当に幸せでした。コランさん、ありがとう！

左下の写真はサイン会でのコランさん。翌日は沖縄公演ということでしたが、終始笑顔と素晴らしい演奏で、ファンを楽しませていただきました。(遠藤由佳)

チランには、“6歳からアコーディオンを始め、64年間常にフランスはもとより世界中で第1級のプレイヤーとして活躍してきました”とあります。だとすると、年齢は70歳前半？“日本でのさよなら公演”と云うことなのでしょう。終始笑顔で、飾らない子どものようなしぐさが印象に残りました。

早いパッセージの演奏などは、構造上鍵盤式よりボタンアコの方が向いていると聞いたことがあるけれど、「64年間毎日毎日スケールの練習を欠かさないコランさんだから出来る指の動きなのです」とは、公演を聴きに行った友達から聞いた後日談です。



左は日本のファンのみなさまに、自分の特に好きな曲を選んだという「ダニエル・コランの最新作にしてラスト・レコーディング作！」として発売されたCD「私の心はアコーディオン」会場では多くの方が買い求めサイン会に並びました。



私はべつのCDを購入し解説書に記念のサインをいただきました。(写真下)(Y・O)

